

仕事をする前にちょっとだけ考えてみて下さい

あなたは毎日仕事にどのように対応していますか。仕事を“さばいてばかりしていませんか。”仕事はやりながら身体で考え、行動する臨機応変の智慧が必要ではないでしょうか。

増える業務と効率化で奪われる“考える力”をどのようにしてあなたは自ら、またはチームは引き出していくのでしょうか。今日求められているのは小さなことでも気づいて行動する、そのためにもまずは考える力を養ってはいかがですか。仕事を楽しくするには人と人とのつながりのなかで情報の共有度を豊かにし、当事者意識を持って“そもそも”という価値観の問いの中で考えることではないでしょうか。

“考える”ということは私たちにとってとても大切なことで、たとえば民主主義とは問題解決の最も基本的ルールですがそれでも多くの問題を抱え、問題というのはそもそもあって当たり前なのです。

物事を考えるには“現状はどうか”、“どうありたいか”という思考から出発して“やりながら身体で考え実行する”そして新たな智慧が浮かんでくる。物事はやってみなければわからない、まずは耳を傾け考える事から始めてはいかがでしょうか。

これを自分だけでなくチームで考えると、お互いの役割を認識しつつ正直ベースでぶつかり合い、チームとしての共通言語をもって発散する対話“協力することは損にはならない”ということではないでしょうか。それには各人のチームに対する当事者意識と対話のできる環境づくり（時間的余裕、場所の設定）、人の話を最後までしっかり聞く姿勢、わかりにくい事は問い直すこと、立場を可能な限り離れて対話する。この3つの議論のルールを守りつつ、お互いを味方として厳しく向き合う姿勢が必要でしょう。

参考書：「考え抜く社員を増やせ」

柴田昌治

日経新聞出版社